

(3) まちづくり計画を実施する期間

本計画は、平成 28 年度を初年度とし、平成 37 年度までの 10 年間にわたって実施していきます。

前ページ写真 左：小川郷駅開業 100 周年事業記念式典

右：JA 福島さくらいわき地区女性部高萩支部 甘梅漬け生産作業の様子

3 データでみる小川地域について



(1) 地区の概略

小川地区は、いわき市の北部に位置し、阿武隈高地の東麓斜面に位置しています。

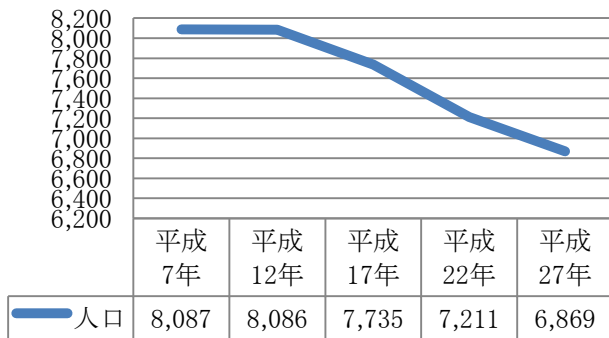
北部は屹兎屋山、猫鳴山、二ツ箭山等の山々がそびえ、夏井川が支川の小玉川と同地区三島地内で合流し、地区の中央を北西から南東に流れています。

南側は、平野と丘陵地となっており、平地区の赤井、平窪と接しています。

山の緑と夏井川、小玉川の清流が美しい自然に恵まれたところであり、草野心平、榎田民蔵、國府田敬三郎など諸分野に逸材を送り出した地域です。

地区の面積と人口				
面積	約112km ²			
人口	6,869人（平成27年国勢調査結果）			
市内他地区との比較				
川前	面積	約116km ²	人口	1,133
平		約109km ²		102,373
遠野		約104km ²		5,569

(2) 人口の推移



当地区の人口は平成12年の国勢調査時点で約8,000人でしたが、以降減少が続いています。

現在、地域内に東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所の事故によって、双葉郡の各町から避難されている方のための「復興公営住宅」が133戸整備されています。復興公営住宅への入居により、地区内の人口は、一時的に増加が見込まれます。

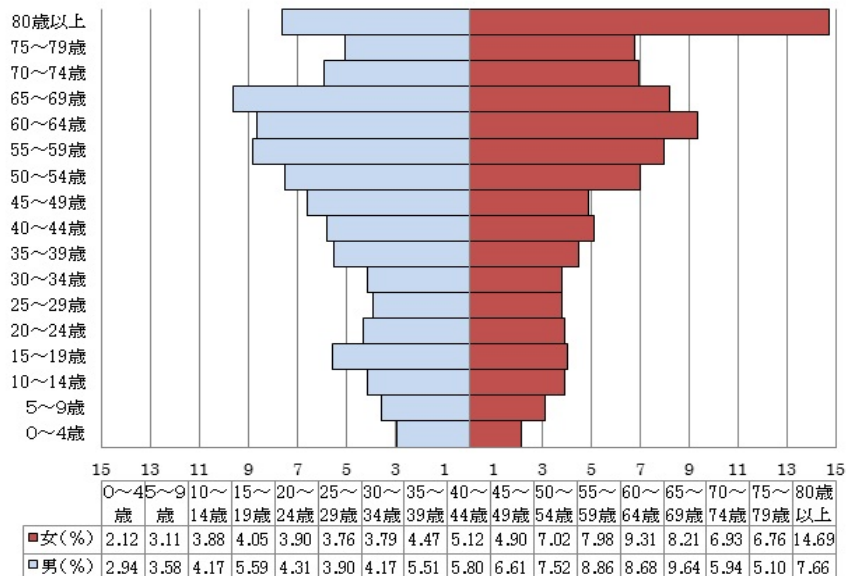
(3) 今後の人口の見込み

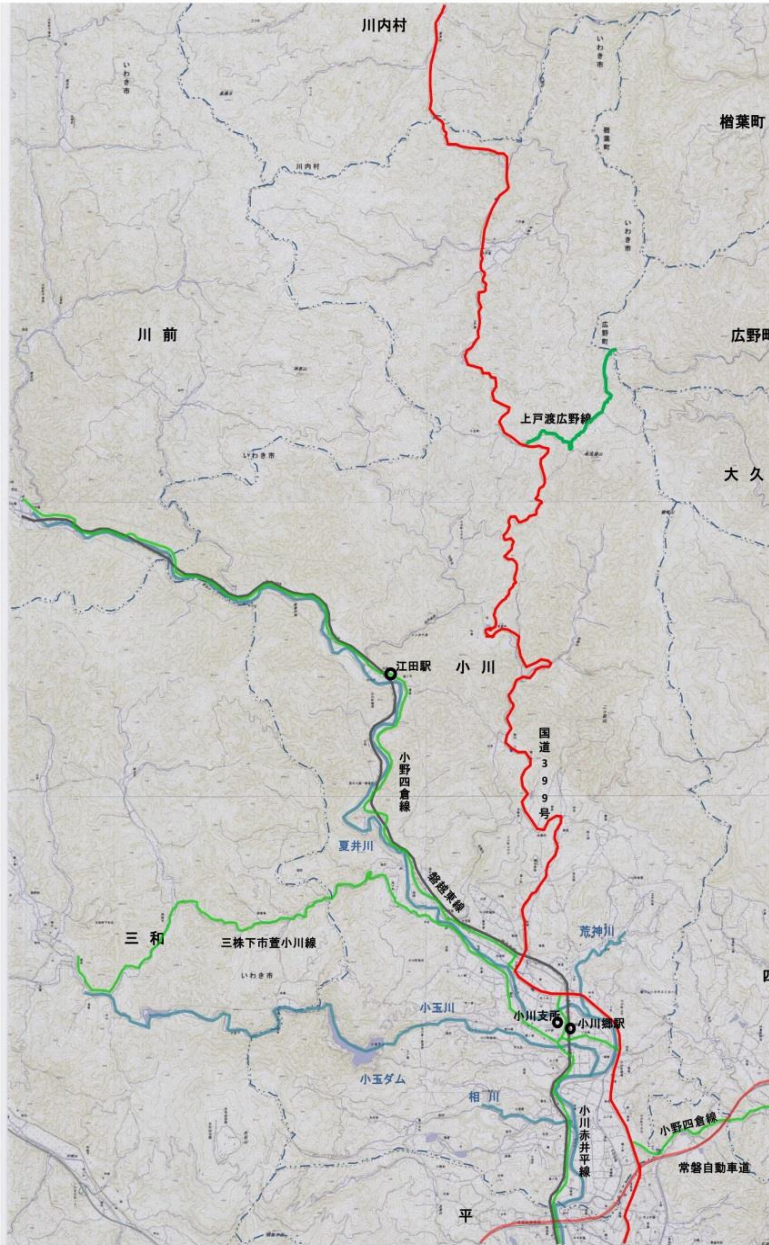
当地区の人口構成は、高齢者が占める割合が多くなっています。

今後1～2年は、「復興公営住宅」への入居に伴う人口増が見込まれるものの、長期的に見た場合には、人口の減少が見込まれます。

小川地区の人口ピラミッド

平成27年4月1日現在





(4) 交通

いわき市の中心地の平地区までの距離は約10kmです。

鉄道は、いわき市と郡山市を結ぶJR東日本の磐越東線が地区内を走っており、小川郷（おがわごう）駅と江田（えだ）駅が設置されています。地区の中心駅の小川郷駅は、磐越東線の始発となるいわき駅から2つ目の駅で、列車の発着駅となっています。運行本数は、小川郷駅は1日8往復、江田駅では1日6往復となっています。

道路は、地区の中央を国道399号が縦断し、南は市内中心部へ、北は川内村へと続いています。市内中心部までは車で20分程度です。

また、県道小野四倉線が地区内を北西から南東方向に走っており、北西方向は小野町方面、南東部は市内四倉町へと続いています。

阿武隈高地内の道路は、概して急傾斜で、道幅も狭くなっています。

今後、国道399号十文字工区等の整備や県道小川赤井平線の道路改良工事、小川橋の架け替え、広域農道等の道路の整備が進められていく予定です。

凡例

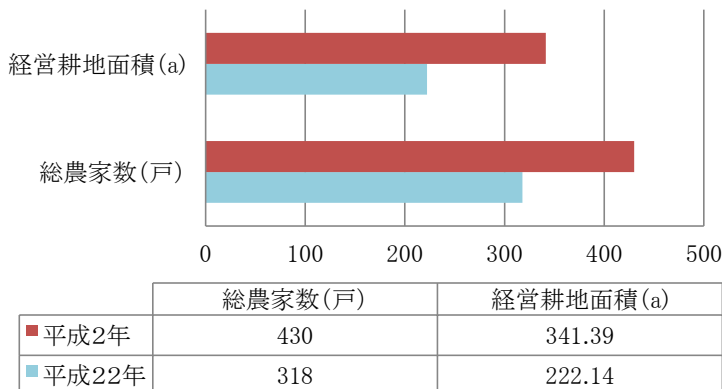
赤線：高速道路・国道

緑線：県道

青線：河川

(5) 産業

経営耕地面積・総農家数



当地区は、いわき市内においては、農業地域としての性格が強い地区です。農地は地区の南東部の夏井川流域に広がっており、高台や丘陵地の一部には梨等の果樹園が点在します。経営耕地面積、総農家数は減少しています。

※総農家数・経営耕地面積は、旧上小川村・下小川村地域の合計です。旧赤井村分(大字高萩・西小川・塩田・三島)については現在の赤井地区と合せて平地区に集計されているため含まれていません。

(いわき市の農業 世界農林業センサス結果報告書より参照)

(6) 歴史

奈良時代、本市の北半分は磐城郡で、その役所である磐城郡衙が平下大越地区であると遺跡から推定されます。また、隣接して建てられた寺院の遺跡が夏井廃寺跡ですが、この遺跡から出土の瓦を造ったのが、下小川の二俣神社にある梅ヶ作瓦窯跡群です。作られた瓦は、夏井川を舟で下って運ばれたものと推測されますが、7世紀ころの当地区は、磐城郡の支配下にあったことが証明されています。

延長5年(927)に成立した「延喜式神名帳」には、下小川の二俣神社が記載されています。

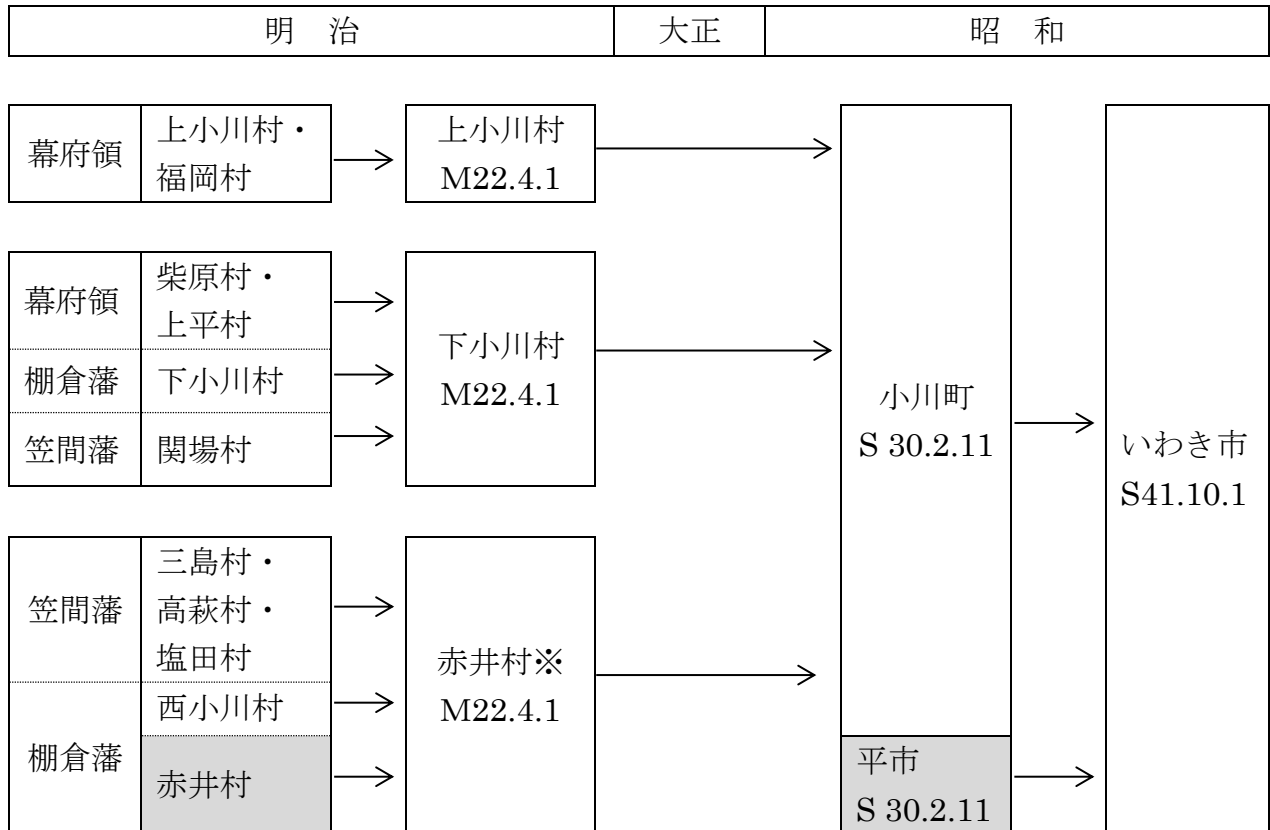
11世紀の終わりごろ、岩城氏が岩城郡の地頭になり、勢力を拡大する中で、当地区もその支配下になったと推定されています。

その後、当地区は常陸守護佐竹氏の一族小川氏に領有され、1320年ころ小川(佐竹)義綱が西小川中柴に館を建てたといわれ、また高萩の熊野神社勧進、下小川の長福寺の開山も、義綱によって元享2年(1322年)にされたと伝えられています。小川氏は、岩城氏の勢力拡大に伴い家臣団に組み入れられ、領地・村落経営の一端を担いました。

関ヶ原の戦いの後、岩城氏は徐封され、代わりに入封した鳥居氏がこの地を治めました。

その後、この地は細分割され、泉、棚倉、笠間等の各藩及び幕府の直轄地とされました。

(7) 明治以降の行政区域の変遷



※ 赤井村のうち、大字西小川・高萩・三島・塩田が、上小川村、下小川村と合併し、小川町を新設。大字赤井は平へ編入。(いわき市内地域別データファイル等を参照)

(8) 文化財

種別	文化財名	所在地	所有 (管理者)
国：重要文化財（彫刻）	もくぞうじぞうぼさつぎぞう 木造地蔵菩薩坐像 (附) 像内納入品	小川町下小川字上ノ台	長福寺
市：有形文化財 (建造物)	ちょうふくじほんどう さんもん 長福寺本堂 山門	小川町下小川字上ノ台	長福寺
市：有形文化財（彫刻）	もくぞうこうしょうぼさつぎぞう 木造興正菩薩坐像	小川町下小川字上ノ台	長福寺
市：有形文化財（典籍）	ほうじゅいんてんせき いんじんじょう 寶聚院典籍及び印信状	小川町西小川字上谷地	寶聚院
市：有形文化財 (歴史資料)	てんめいききん ひ 天明飢饉の碑	小川町上小川字植ノ内	常慶寺
市：有形文化財 (歴史資料)	うわだいらもんじょ 上平文書（附）三通	平字揚土	個人
市：有形文化財 (歴史資料)	せつぷほうしょう ず 節婦褒賞の図	小川町高萩字家ノ前 〃 塩田字宮ノ後	諏訪神社
市：有形文化財 (歴史資料)	ちょうふくじえんぎ 長福寺縁起	小川町下小川字上ノ台	長福寺
市：天然記念物	うわだいら 上平のナギ	小川町上平字熊ノ前	個人
市：天然記念物	うちくらしげん 内倉湿原	小川町上小川字沼	個人
市：天然記念物	かんのんじあと 観音寺跡のスタジイ	小川町柴原字館下	個人
市：天然記念物	すわじんじゃ 諏訪神社のシダレザクラ	小川町高萩字家ノ前 〃 塩田字宮ノ後	諏訪神社
市：無形民俗文化財	じゃんがら ねんぶつ じゃんがら念仏踊り	市内一円	じゃんがら念仏踊 保存団体 連合会

※ 指定文化財一覧を参照

4 小川地域の現状と問題点や課題、その解決のためのアイデアについて

小川地域は、

- ① 産業の中心は農業ですが、農家や耕地が減少している。
- ② 少子高齢化が進み、今後人口の減少が見込まれる。

地域である一方、

- ① 市中心部に近いのにもかかわらず、豊かな自然に囲まれている。
- ② 様々な地域資源がまだ生かしきれていない。

地域と見ることができます。

このような小川地域で、当会が目指す小川地域を実現するため、まず次のように考え、始めることとしました。

- ① 当地域の現状を把握すること
- ② ①から、「地域のかかえる問題点」やその問題点に対応するための課題を考えてみる
- ③ ②の問題点や課題を解決するためのアイデアを、まずは挙げていく

具体的には、当地域に住んでいるいろいろな年齢、職業の方々に集ってもらい、前述の①、②、③についてテーマを決めて話し合い（ワークショップ形式）を行い、意見を集約することとしました。

また、意見を集約していく過程においては、次の点を重視しました。

- ① 意見を客観的に取り扱うこと
- ② 特定の方の意見に偏らないようすること
- ③ アイディアを考えるうえでは、他地域での取組みなども参考になるため、いろいろな地域のいろいろな事例を例示してもらうこと

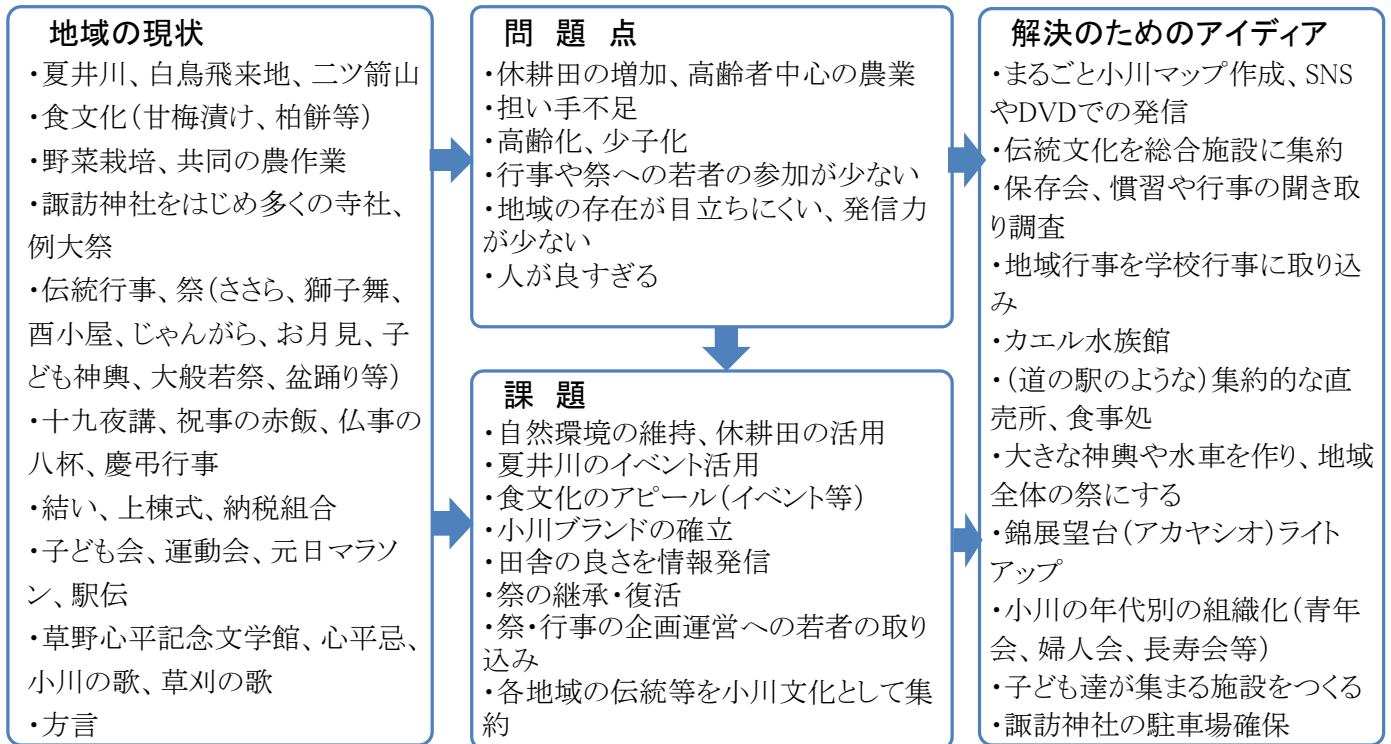
そこで、今回は、地域の話し合い（ワークショップ）のファシリテーター（進行・とりまとめ役）に外部講師を招き、いわゆる「よそものの視点」を入れながら、意見を取りまとめていくこととしました。

次頁以降には、小川地域の現状と問題点や課題、その解決のためのアイデアを考えていくための地域の話し合い（ワークショップ）の結果を掲載します。

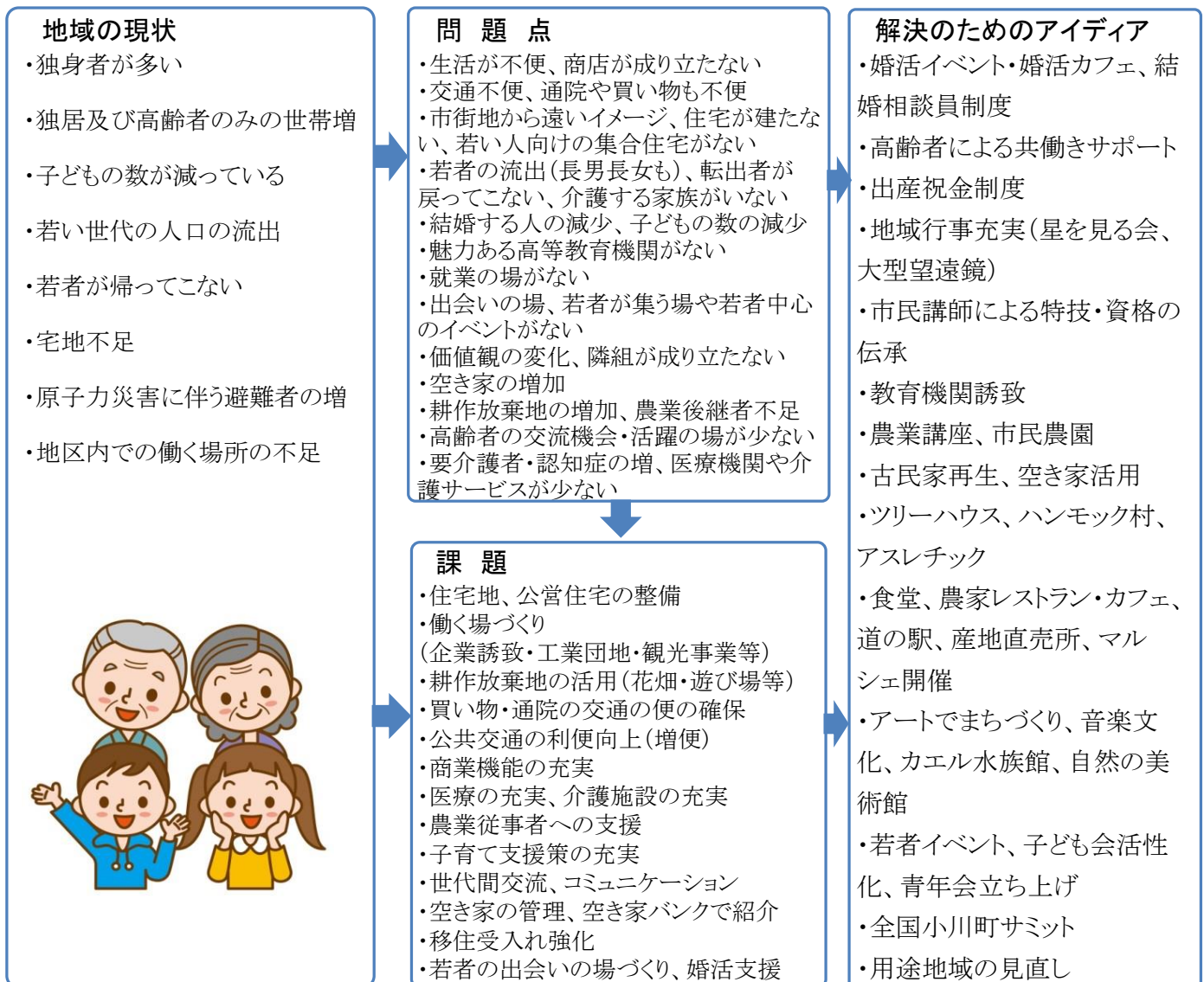
なお、テーマは、次の5項目に設定しました。

- ① 地域文化・習慣・風習・行事等
- ② 少子化及び高齢化問題
- ③ 産業
- ④ 道路・交通・防災
- ⑤ 生活・コミュニティ・公共施設等

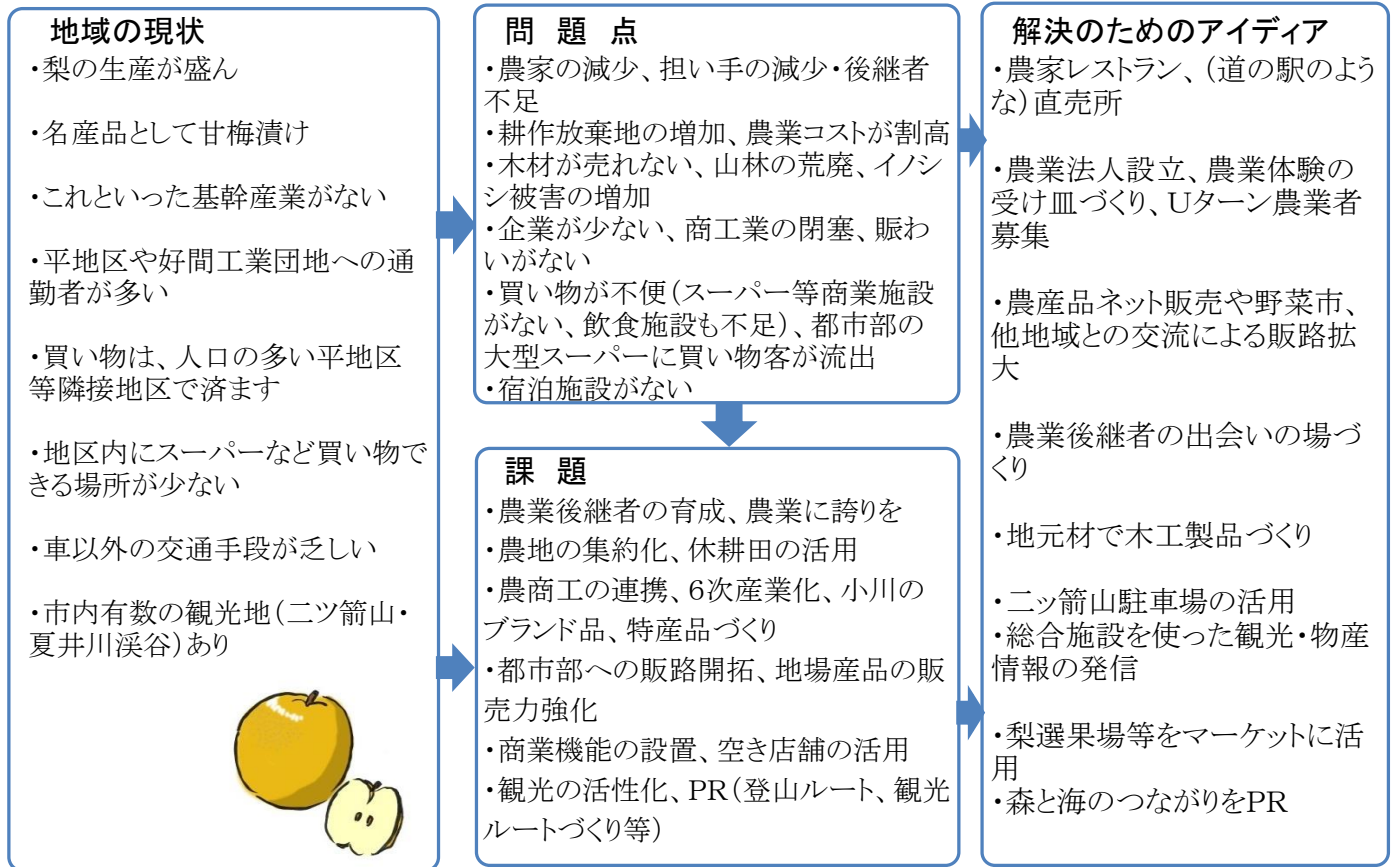
テーマ：① 地域文化・習慣・風習・行事等



テーマ：② 少子化及び高齢化問題



テーマ：③ 産業



テーマ：④ 道路・交通・防災

